

1 受賞団体・個人の名称

ながおけんじ

長尾見二 (愛媛県今治市)

(問い合わせ先)

(0898) 22-3657

(経歴)

昭和41年 就農

昭和51年 日本有機農業研究会の

研修会参加をきっかけに、化学肥料と
農業に頼らない循環型農業を目指して、
有機農業による水稲と野菜と採卵鶏の複合経営を始める。

平成11年に有機JAS認証制度の施行に合わせて速やかに認証を取得(平成23
年には、水稲200a、小麦30a、露地野菜160aが有機JASの認定を受ける)

(受賞時の経営内容)

水稲(2ha)・露地野菜(たまねぎ、にんじん、じゃがいも、にんにく等)、
採卵鶏3000羽



2 生産面の取組

①土づくりを基本とした有機栽培

安全・安心と自然環境に配慮した自家製の
鶏糞に、同量の籾殻を混合して1~2年間熟
成させた堆肥を作物に応じて1~2t/10aの投
入を土づくりの基本としている。

また、緑肥による土づくりに取り組んで
おり、ヘアリーベッチを輪作し5月に鋤き込
みを行っている。

②水稲「深水管理栽培の確立」

セル成型苗の田植え、米ぬかペレット(油
粕・米ぬか配合肥料)の同時施用、田植直後
からの深水管理による病害虫・雑草抑制等
の深水管理栽培技術を確立し、省力化と安
定供給を向上させた他、所得向上へ寄与し
ている。

また、最低15cmの深水に管理するため、
畦塗り機で土畦をつくり、多種多様な生き
物の住処となっている。



3 経営面の取組

①有利販売に向けた取り組み

昭和54年「愛媛有機農産センター」設立

昭和56年「愛媛有機農産生協」設立(名称変更)

昭和57年「今治立花有機農業研究会」発起



②経営面での特徴

学校給食へは、慣行農産物の市場相場の最高値に
準じた価格で供給しており、流通経費を抑えるために、集出荷は今治立花有
機農業研究会の会員が直接調理場に配達している。

愛媛有機農産生活協同組合への出荷は、研究会が中心となって生産コスト
が反映された価格を確保するために、年2回付会議を実施して生産量や価
格の取決めを行い、生産量と消費量のバランスを取りながら運営している。

また、有機への理解の醸成として、虫食い等の農産物の苦情に対しては出
荷調整会議の開催や、実際に有機圃場に招くなどしている。

4 取組の成果

①有機農業の経営確立

消費者家族との交流会により消費者の有機農産物へ
の思いと有機農業の実情を知ることにつながるなど、
価格と供給の安定に寄与。

②学校給食への供給

昭和58年度 今治市立鳥生小学校へ供給開始
平成24年度 4校(1,476食分)へ拡大

現在の供給先: 今治市立鳥生小学校
今治市立立花小学校
今治市立城東小学校
今治市立美須賀小学校



5 新たな目標

①栽培関係

・深水管理栽培

ポット苗専用田植機から、通常の田植え機による成稲移植を可能にする
ことにより慣行栽培農家でも有機農業へ容易に転換が可能となる。
水田の集約と同一水系で管理することにより、労働時間10アールあたり
6~7時間の短縮に繋がることで、より大規模な栽培が可能となることで、
学校給食米に必要な面積の確保と販売単価の低下に繋げられる。
(学校給食米に必要な面積30ha、300円/kg)

②学校給食

・現状の減農薬、減化学肥料から全量を有機米へ変更。